

1. 人口

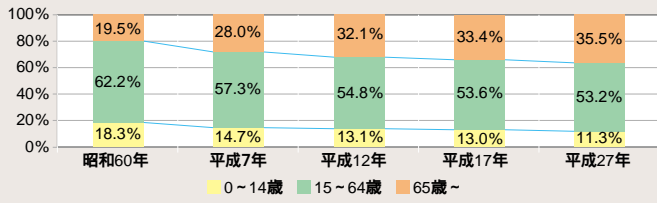
佐渡の人口は、平成12年国勢調査によれば、人口総数は72,173人で、平成7年の国勢調査時より2,776人減少しています。

将来推計人口は、少子化の進行などにより、平成27年には62,021人に減少し、そのうち特に地域の担い手である生産年齢人口(15歳～64歳)が減少すると推計されています。

佐渡の老年人口比率(65歳以上の人口の割合)は、平成7年で28.3%と全国の老年人口比率(14.5%)や新潟県の老年人口比率(18.3%)を、既に大きく上回っています。

平成27年には、3人に1人以上(35.5%)が65歳以上になると推計されています。

佐渡の人口比率と推計比率



2. 産 業

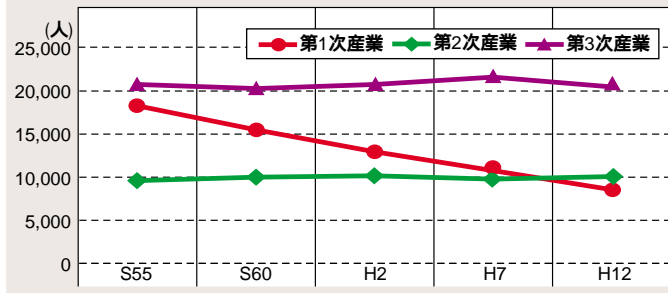
(1) 概況

佐渡地域の就業者数は、平成12年国勢調査が39,428人で産業別構成は、第1次産業22.3%、第2次産業25.1%、第3次産業52.5%で、第1次産業が急速に減少し、第2次産業及び第3次産業が横ばいとなっています。

農林漁業従事者の高齢化が進んでおり、農林漁家の減少や深刻な担い手不足が懸念されています。

産業別就業人口の推移

資料:国勢調査



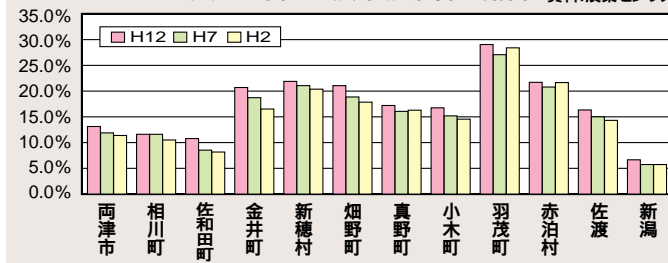
(2) 農業

水稲を主体とした経営形態が中心で、地域性を生かし、国仲平野では稲作、南佐渡では柿や葉たばこ、その他の海岸段丘では稲作や肉用牛と沿岸漁業による複合経営が営まれています。

野菜などの青果物の島内自給率は10%程度と低く、島内自給率の向上が課題となっています。

人口に占める農業就業者の割合

資料:農業センサス



(3) 林業

佐渡島の70%以上を占める森林(山林、雑種地)は、島の保全や水資源のかん養など、多様な役割を果たしています。

木材価格の低迷や生産コストの増大による採算性の悪化などにより、手入れの行き届かない森林が増加しています。

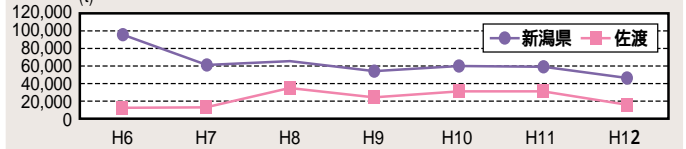
地元材の生産、加工、流通体制の整備が遅れているため、島外からの安価な製品等の移入により、地元材の利用が遅れています。

(4) 水産業

島内水産物生産量のうち、島内消費に出回る量は少なく、島外出荷による鮮度低下と輸送コストの増大が課題となっています。

漁業生産量の減少や魚価の低迷が恒常化しつつあります。

漁獲量の推移



(5) 商工業

ア 商業

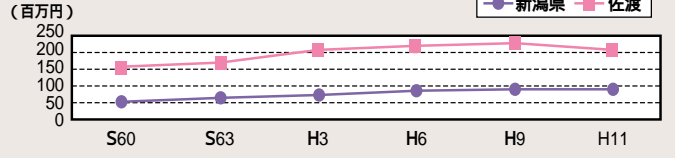
佐渡の商業規模は、平成11年度で県の平均値と比較すると、1商店当たりの従業員数では、県平均5.7人を1.8ポイント下回る3.9人です。

1商店当たり年間販売額では、約120百万円下回っており、この格差は依然として縮まっておらず、零細であることが分かります。

商店数は、昭和60年の1,854店から、平成11年には1,599店と、255店も減少しています。

大型小売店や専門店の発展を促した道路交通手段の進展は、一方で最寄り中心の、小集落の小売店や地域の買回品を駆逐する傾向にあります。

1商店当たり年間販売額



イ 工業

佐渡の工業は、食料品、木材業、窯業、出版、電気などが主なものです。

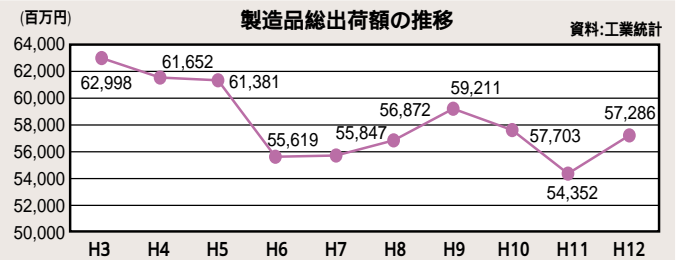
1工場当たり従業員数は、県平均では15人程度で推移しているのに対し、佐渡では10人台で推移しています。

業種別事業所の推移は、家具が増加しているのに対し、木材が減少しています。

出荷額については、窯業と電気が増加しているのに対し、食料と衣服が減少しています。

製造品総出荷額の推移

資料:工業統計



(6) 観光

佐渡における観光客の入込数は、平成3年には121万人にまで増加しましたが、以降減少を続け、平成13年には85万人を下回るまで落ち込み、島内経済に与える影響は大きなものとなっています。

リピーター の少ない佐渡観光の体質改善を視野に入れた、佐渡の魅力の再構築が今後の課題になっています。

リピーター=買物・食事・宿泊・旅行などで、同じ店やホテル、観光地を何度も利用したり、訪れたりする人のこと。

観光客入込数の推移

